

有グノカルチャー

[発行元]

有田振興局地域振興部農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-64-1273

FAX: 0737-64-1274

明けましておめでとうございます

皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素は、県行政とりわけ農業振興に格別のご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。

去年は、TPPが大筋合意され、今後の日本農業に対する影響が気になるころではありますが、有田みかんの産地をより堅固なものとするため、県といたしましても的確に国の情勢を踏まえながら、国の施策を活用するとともに、県独自の施策と併せ、有田地域の課題解決に向け皆様とともに、職員一丸となって取り組む所存でございますので、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



有田振興局 地域振興部 農業振興課 課長 成川 正芳
職員 一同



意見交換会

和歌山食材テロワール事業が有田で開催されました

県では、平成26年度から「和歌山食材テロワール事業」として、「辻調グループ」と連携し、県内農産物のPRに取り組んでいます。

8月7日には、有田地域でみかん園の見学やシンポジウムが開催され、パティシエの卵である辻調の学生と有田管内の青年農業士、4Hクラブ員による意見交換も活発に行われました。

※テロワールとは・・・

ワインによく使われる言葉で、土地特有の条件により原料のブドウの味が異なるため、それぞれの土地の生育環境をテロワールと呼びます。



現地見学



「花育」和歌山の花を使った国体おもてなし

～小学生が作ったおもてなしブーケ～

和歌山の花に親しむ「花育」として、有田地域の小学校で、「紀の国わかやま国体」の閉会式に選手達へプレゼントするブーケを作りました。JAありだ、県スプレーマム研究会メンバーの協力のもと、子供達が一生懸命ブーケ作りを行いました。

初めて作ったブーケは本当に嬉しかったようで、大事そうに持ち帰る姿が印象的でした。今後、子供達が花に親近感をもつことで、花の需要拡大に繋げていければと思います。



ブーケ作り

普及グループの取組

農業振興課では、有田地域の現状と将来の方向を見据え、課題解決に向けて普及指導計画を策定し、それに基づいた取り組みを行っています。

有田みかん産地の活性化

近年、収穫期の高温や降雨による浮皮果の発生が問題となっており、浮皮しにくい品種の導入や浮皮を軽減する技術の普及が課題となっています。そこで浮皮しにくい中生温州みかんの新品種「きゅうぎ」の適地導入に向けた取り組みや、植物調整剤の散布による浮皮軽減技術実証ほを設置し技術の普及に努めています。

平成26年に引き続き、有田川町内の園地で平成24年に高接ぎした「きゅうぎ」の果実肥大と品質調査を7月中旬から毎月2回実施しています。今後、導入適地を検討するための基礎データ収集として、標高や園地の場所が異なる6ヶ所で実施しており、得られたデータは生産者、JA、果樹試験場と共有しています。

また、有田川町内で平成27年春に改植された「きゅうぎ」6園地と、平成26年春に1年先行して改植された有田川町内と広川町内の2園地の園地巡回を関係者（生産者、JA、果樹試験場）で行い、樹の大きさや新梢の伸び具合などを確認しました。平成27年春に改植された苗木の生育調査（樹高、樹幅、幹周長）を7月下旬に行いました。今後とも調査を継続しデータを収集する予定です。



きゅうぎ(高接ぎ)



苗木巡回

まりひめの安定生産

県のオリジナル品種である「まりひめ」は、有田管内のいちごの約80%を占めています。

「まりひめ」は果実品質・収量性に優れた品種ですが、炭疽病や芯止まりの発生が多いなど育苗期の管理が重要です。

農業振興課では、「まりひめ」安定生産に向けた支援を行っています。

- ①土壌診断の実施
- ②炭疽病対策の徹底
- ③高設栽培での安定生産
- ④県育成新系統の現地栽培調査



土壌診断

新規就農者及び担い手の育成

Uターンして新たに農業を始めた人や若い農業者を対象に、栽培技術の習得や経営感覚の育成、情報交換等を目的として、年間を通じて研修等を行っています。

今年度は、6月と8月に温州みかんの摘果研修を行いました。今後も、みかんの剪定研修等を実施する予定です。



摘果講習会

農業団体の活動

有田地方農業士協議会

農業士協議会（会長：伊藤博文氏 239名）では、研修会や情報交換会を通じ、生産技術の向上と農業経営の発展を目指しています。

今年度は、4月に「身近な食と環境」をテーマとした講演会、7月に「都市と農村の関係」、「農業用マスクの適正使用」に関する講演会を開催しました。また、9月には有田管内で生産・加工・地域興しなどに取り組む優良事例の現地見学を行い、会員相互の交流を図るなど活発に活動しています。



有田地方4Hクラブ連絡協議会

4Hクラブ連絡協議会（会長：南村準治氏 42名）では、栽培管理技術や経営管理の向上など若手農家の活性化に向けた活動を行っています。また、スポーツ大会や農村青年交流会を実施し仲間作りや親睦も行っています。



有田地方生活研究グループ連絡協議会

生活研究グループ連絡協議会（会長：宮地スミ子氏 179名）では、郷土料理の伝承や地域農産物を使った加工品開発・料理提案、食育など地域に根ざした活動に取り組んでいます。今年度は5月に事例研修、6月に料理講習を行っています。



農地中間管理事業

あなたの**農地**
貸したい方を募集しています!!

担い手への農地集積・集約化でみかん産地を守りましょう

「高齢のため農業が辛くなった」、「後継者がいない」等の理由で農地を誰かに貸したい方を募集しています。

平成26年度より始まった新しい農地貸借事業である「農地中間管理事業」を活用すると、公的機関である和歌山県農業公社が、貸したい方と借りたい方の間に介入しますので、安心して農地の貸借が行えます。

詳しくは、JA ありだまたは農業振興課にご相談ください。

農地中間管理事業のイメージ図



鳥獣被害は適正な防護柵で防止出来ます！

有田地域の鳥獣被害の現状

平成26年度の鳥獣による農作物の被害状況は、被害面積約220ha、被害金額約5600万円で、被害全体でイノシシによるものが53%、サル15%、シカ21%を占めており、果樹の被害が全体の90%を占めています。

野生動物の個体数の増加により、イノシシによる園地の掘り返し、石垣の崩壊、サルによるみかん等の食害、シカによる樹体被害など様々な被害が増えてきています。それに加えて、近年、ヒヨドリやカラスによる食害も増加していることから、加害動物を考慮して複合的な被害防止対策に取り組みましょう。

技術と対策

効果的な鳥獣害対策は、環境整備・防護・捕獲の3つの柱からなる総合的な取組が必要です。

- ・ 環境・・・動物のエサ場や住処をなくす
- ・ 防護・・・農作物を防護柵で囲む
- ・ 捕獲・・・被害を及ぼす鳥獣の駆除

野生動物個体数の増加原因は不用意なえさの提供です。収穫しない果実等は、野生鳥獣にとって格好のえさ場となりますので、鳥獣被害を減らすために、それらのえさ場をなくす環境整備対策、農作物を防護柵等で防護、鳥獣を捕獲することにより個体数を減らすことが必要となります。

防護柵設置のポイント

- ・ 防護柵は、見回り、補修などの維持管理が大切です。
- ・ 設置する場合は近隣の方とよく話し合ってください。
- ・ 鳥獣種や作物にあった防護柵を設置しましょう。

防護柵は設置した時点が鳥獣害対策のスタートです

防護柵の設置補助

- ・ 2戸以下の農家で設置する場合（防護柵等設置支援事業・県単事業）
補助率：2/3（県1/3以内、市町村1/3以上）
防護柵の資材に要する経費の上限：900円/m以内（イノシシ・シカ用）
2,000円/m以内（サル用）
防護柵以外の経費の上限：54,000円/10a以内（鳥害対策用）
- ・ 3戸以上で設置する場合（鳥獣被害防止総合対策事業・国庫事業）
補助率：施工費込の定率補助か、資材費のみの定額補助の選択可能。

鳥獣害で困ったら、農業振興課までお気軽にご相談ください。



イノシシによる石垣の崩落被害



シカによるみかんの樹体被害



総合的な取り組み例（広域防護柵と箱わな）

農家個々の防護柵で農地を囲うとともに、広域防護柵により集落を守る。さらに、箱わなで捕獲すると効果的です。

農業教育支援・食育活動



和歌山特産の果実を知ろう、食べよう

(小、特別支援学校)

県産果実に親しみを持ってもらうため、管内小学校、特別支援学校にみかん、柿、梅、桃を提供し、給食や家庭科等の教材として活用していただきました。



学校教育支援

振興局では、学校教育支援を実施しています。

有田市立糸我小学校では、種まき、苗作り、アイガモの孵化、田植え、そして収穫まで1年をかけてお米作りを学びました。

湯浅町立山田小学校では、「わくわく山田って農園」でナスや大豆等を自分達で作り、郷土料理である金山寺味噌や醤油づくり等を行いました。

有田市立保田小学校と有田川町立御霊小学校では、子供達がみかんの開花から収穫までの体験授業を地元農業士の協力のもと実施しました。



受賞者の紹介



農事功績表賞「紫白綬有功章」 秋竹 新吾 氏 (有田市)

秋竹氏は、みかん農家7戸で早和共撰を設立し、栽培技術を研いて高品質みかんの生産に取り組まれてきた。夢を描ける農業を合い言葉に平成12年に法人化し、みかん農業の6次産業化に取り組み、高品質みかんを加工した商品で高い評価を得ている。

また、地元農家からのみかん買取や事業規模拡大による若者の雇用創出など、地域の活性化に大きく貢献されている。



農林水産業賞(農業部門) 太田 直廣 氏 (湯浅町)

太田氏は、湯浅町田地区の担い手農家、指導農業士として地域のみかん栽培を牽引され、田村出荷組合の役員として「田村みかん」ブランドの強化に尽力されている。

みかんの加工にも取り組み、生果及び加工品の販路は国内外に広がっている。特に輸出への取り組みは、県内でも先駆的に手掛けている。また、年間を通じて事業を行うことで雇用の確保につながるなど、地域の活性化にも大きく貢献されている。



農林水産業賞(農業部門) 中井 理自 氏 (有田川町)

中井氏は、柑橘専作から、柿やスプレーマムの導入を行い、複合経営による労力配分に考慮した農業経営を実践されている。スプレーマム栽培には、県内で導入され始めた頃から取り組み、栽培技術の向上や品種の検討など、安定生産のために尽力されてきた。

また、生産者の組織体制の強化により共同出荷体制の確立や周年安定供給への基礎づくりに寄与された。県スプレーマム研究会長などを歴任し、産地発展に大きく貢献されている。

お知らせ

「有田みかんデータベース」では、柑橘類の着花調査結果や温州みかん果実品質調査結果をはじめ、地域内の降雨状況など、みかんに関する色々な情報を発信していますので、ぜひご活用ください。

有田みかんデータベース

検索

